
誰にでも意見を合わせる男

入川出水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誰にでも意見を合わせる男

【著者名】

ZZマーク

【作者名】
入川出水

【あらすじ】

あるところに、誰にでも意見を合わせる男がいた。

(前書き)

シニア・トレーナー 第二弾。

あるところに、誰にでも意見を呑ませる男がいた。名前を〇寺といつた。

とある夏の日に、〇寺の友人Ｋ倉はこんなことを呟いた。
「今日は暑いなあ。こんなに暑い日はめったにないよ」
すると〇寺はここにこと笑みをはりつけながら、
「わかります、わかります。ぼくも暑くてたまりません」と、両手で顔を扇ぐのだった。

〇寺はＫ倉と別れてまもなく、もう一人の友人Ｓ井と出合った。
Ｓ井はこんなことを語った。

「今日は涼しいなあ。今年は冷夏なのかもしれないな」
それに対して、〇寺は満面の笑みを浮かべて、
「わかります、わかります。ぼくも一の腕の辺りがひんやりとして
仕方がありません」と、両手で肌をさするのだった。

また別の日に、Ｋ倉は〇寺にこんなことを打ち明けた。
「おれ、実はＭ子のことが好きなんだ」
〇寺はいつもの笑顔でＫ倉の肩を叩いた。
「だいじょうぶですよ。Ｋ倉くんならきっとＭ子さんとつまむいきます。というよりも、Ｋ倉くんほどＭ子さんに似合つ男は他にいません」
と、自信たっぷりに励ますのだった。

翌日にＳ井から〇寺に電話が掛かってきた。Ｓ井はこんなことを漏らした。

「おれ、実はM子のことが好きなんだ。でも、K倉もM子を狙っているみたいなんだ」

「心配はいりません。M子さん、おやりべK倉くんよつもU井くんのことはもうが好きでしょ。U井くんなら、わひとM子さんとうまくこきます。ぼくが保証します」

と、背中を押すのだった。

ある日、O寺がK倉とU井と一緒に昼食を摂っていたところ、M子の話題になつた。

K倉は少し照れながら「んな」と話をした。

「おれはM子に告白しようと思つ。O寺も、おれならM子とつまくやれると言つてくれた」

「ええ、そのとおりです。K倉くんは必ずM子さんとつまくこきます」

O寺は一切の迷いなく言い切つた。

すると、U井が焦つて「こんなことを聞いてきた。

「O寺、おまえはおれとM子の仲を保証してくれたんじゃなかつたのか。彼女はK倉よりもおれのことのほうが好きだと、やつ言つたじゃないか」

「ええ、言いました。U井くんは必ずM子さんとつまくこきます」

O寺はさも当たり前のように言い放つた。

ここまできて、K倉とU井は首を傾げた。

「おまえは一体どっちの味方なんだ」

「せつから言つていることが矛盾しているじゃないか」

しかしO寺はまったく臆することなく、いつ答えた。

「ぼくはお一人ともの味方です。とても心強い味方です。はい、確かに矛盾しています。ぼくほど矛盾している人はそういうのではないか、というくらい矛盾しています」

O寺の言葉に、K倉とU井は顔を見合させて、

「もうわけがわからない」

「まつたくだ」

と、あきれ返ったのだった。

「ちょうどいいよ、M子がやってきた。M子は『こんなことを告白しました。』

「わたし実はK倉くんのことが好きなの」

「本當か、M子」

K倉とM子は見つめ合って、顔を赤らめた。S井はひどく落ち込んだ。

「よかつたですね、K倉くん。ぼくはいつかこうなると信じていました」

「ありがとうO寺。さつきは疑つてすまなかつた」

しかしM子は首を振った。

「でもわたし、S井くんのこと嫌いじゃないの。いいえ、むしろ好きなのかもしない」

「本當か、M子」

S井は顔を上げて、M子と見つめ合つた。K倉はとても落胆した。
「よかつたですね、S井くん。ぼくはいつかこうなると信じていました」

そこでK倉とS井はまたも顔を見合わせ、そして憤慨した。

「O寺、おまえは本當にはつきりしないやつだな！」

「おまえみたいな他人に会わせてばかりの人間は、最低だ！」

「そうだ、最低だ！」

しかしO寺はやはりにここと笑みをはりつけながら、『こんなことを言つた。』

「そのとおりです。ぼくは最低な人間です。最も低いと書いて、最も低です」

K倉とS井は恐ろしい顔でO寺を睨み付けた。

「最低な人間はどうなるべきかわかるか

「はい、よくわかります」

「最低な人間は死ぬべきだ」

「ええ、絶対に死ぬべきです。生かしてはなりません」

「じゃあ、おれたちがおまえを殺す」

「そのほうがいいでしょ」

K倉とう井は、〇寺を殺した。

誰にでも意見を合わせる男は、死んだ。

(後書き)

感想待つてます(^ ^)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8080u/>

誰にでも意見を合わせる男

2011年10月7日10時34分発行